

【上巻 記録史料と文書館】

はしがき

- 序 アーカイブズの科学とは …………… 丑木幸男 …… 1
- 1 アーカイブズの理念と文書館 1
- 1) アーカイブズ
- 2) 文書館の設立
- 3) 公文書館法の制定と情報公開法
- 2 アーカイブズ学の課題と本書の構成 9
- 1) 古文書学からアーカイブズ学へ
- 2) アーカイブズ学の課題
- 3) アーカイブズ学体系化の共同研究
- 4) 本書の構成

I 情報とアーカイブズ

《1編 情報と記憶・記録》

- 1章 情報と記憶 …………… 保立道久 …… 16
- はじめに 16
- 1 情報と記憶とは何か——神経系統・精神労働・文字 18
- 1) 神経系統とネットワーク
- 2) 記憶・記録・文字——社会的分業と精神労働
- 3) コミュニケーションの構造と文字
- 2 交通と情報の諸形態 23
- 1) 生活情報と無文字情報

2)	経済情報と技術情報	
3)	価値情報と貨幣＝社会的象形文字	
4)	イデオロギー情報と通信システム	
3	記憶と記録の諸形態	28
1)	記憶・記録と文書主義	
2)	記録と礼・恭順の秩序	
3)	知識と記憶術	
	おわりに	35
2章	文書と記憶の比較史	渡辺浩一……41
	— 播州三木とイングランド・グレイトヤーマス	
	はじめに	41
1	〈都市の特権〉の危機	41
	1) 播州三木	
	2) Great Yarmouth	
2	文書保管	45
	1) 播州三木	
	2) Great Yarmouth	
3	歴史叙述	52
	1) 播州三木	
	2) Great Yarmouth	
	おわりに	57
3章	中世の組織体と記録	富田正弘……60
1	中世の組織体	60
	1) 官僚官人の家	
	2) 武士の家	
	3) 寺社の家	
2	中世の家と記録史料	77
4章	中世寺院史料とその「目録」	永村眞……82
	はじめに	82
1	「目録」編成と史料管理	83
2	相承と「経蔵」	87
3	聖教と「目録」	92

おわりに 97

5章 近世の社会・組織体と記録……………大藤修……………99
 — 近世文書の特質とその歴史的背景

はじめに 99

- 1 文書の大量発生 of 要因と保存管理の形態 101
 - 1) 幕藩機構の官僚制的整備と執務の文書主義
 - 2) 文書による統治
 - 3) 商品貨幣経済の発展と文書主義の社会への浸透
- 2 種類の多様化 107
 - 1) 多様な文書発生 of 要因
 - 2) 文書の種類・相互関係と組織体
- 3 様式面の特質 109
 - 1) 近世文書の様式一般の特質
 - 2) 組織体による文書様式の策定
 - 3) 文書様式への身分・格式と官僚制論理の反映
 - 4) 文章表現の標準化と男女差
- 4 料紙と形態面の特質 113
 - 1) 料紙面での特質
 - 2) 形態面での特質

6章 近現代の組織体と記録……………丑木幸男……………119
 — 公文書の世界と私文書の世界

- 1 多様大量な記録 119
- 2 公文書と私文書 120
- 3 星野家文書にみる私文書と公文書 123
 - 1) 星野家文書の構造
 - 2) 公文書にみる生糸直輸出
 - 3) 私文書の中の公文書
 - 4) 記憶の記録化

まとめとして — 公文書の描く世界と私文書の描く世界 134

7章 コンピュータ社会における集合的記憶……………青山英幸……………136

はじめに 136

- 1 コンピュータ社会への揺りかご 138

- 2 コミュニケーションと情報 141
- 3 情報と記録 143
- 4 集合的記憶 152
- むすびにかえて 157

《2編 アーカイブズ学と関連科学》

1章 アーカイブズ学の地平……………安藤正人…………166

はじめに 166

- 1 アーカイブズ学の構造をめぐって 166
- 2 アーカイブズ学におけるパラダイム・シフト 170
- 3 「脱保管時代」のアーカイブズ学 173
 - 1) 対象概念の変化
 - 2) 目的と方法の変化
- 4 地域に足を、世界に目を——日本の課題 180
- おわりに 183

2章 アーカイブズと歴史学……………渡辺浩一…………187

はじめに 187

- 1 史料学研究の新段階 187
- 2 歴史認識の客体としてのアーカイブズ 192
- むすびにかえて 196

3章 アーカイブズと文化情報……………保坂裕興…………198

はじめに 198

- 1 情報と記号学の原理 200
- 2 〈過去の事実〉とは何か? 206
- 3 文化、情報、そしてアーカイブズ 209
- おわりに——スロー・インフォメーション 214

4章 アーカイブズと図書館情報学……………永田治樹…………219

——メタデータの相互運用性

はじめに——相互運用性の背景 219

- 1 ダブリンコアの成立 221

1) メタデータとは	
2) ダブリンコア・メタデータ要素セット	
2 メタデータの基本問題	226
1) アーキテクチャ (構造・構文・意味)	
2) 情報記述と相互運用性	
3 クロスウォーク	237
おわりに	242
5 章 アーカイブズと博物館・博物館学	君塚仁彦……245
はじめに——問題の所在と本稿の課題	245
1 博物館学はアーカイブズをどう位置づけてきたのか	246
1) 博物館の定義と公文書館・文書館	
2) 博物館とアーカイブズをめぐる諸状況	
3) 博物館学研究とアーカイブズ	
2 美術館におけるアート・ドキュメンテーション研究の動向	254
むすびにかえて	258
6 章 軍事関係史料の戦後史	吉田裕……262
——情報公開法の施行と日本近代史研究	
1 公文書の焼却と隠匿	262
1) 軍による組織的焼却	
2) 軍人による隠匿	
2 GHQによる公文書の押収と返還	265
1) 軍関係文書の押収	
2) 防衛研修所戦史室と史料公開	
3 情報公開法の制定と歴史学	269
1) 情報公開法の問題点	
2) 国立公文書館との関係	
7 章 戦争の記憶、戦争の記録	吉見義明……276
——「従軍慰安婦」関係記録の問題を例として	
はじめに	276
1 「従軍慰安婦」問題の記憶	276
2 日本国内にある「従軍慰安婦」問題の記録	277
1) 外務省外交史料館所蔵資料	

- 2) 防衛庁防衛研究所図書館所蔵資料
- 3) 警察大学校旧蔵資料
- 4) 厚生省社会・援護局所蔵資料
- 5) 法務省法務図書館旧蔵資料
- 6) 国立公文書館所蔵資料
- 3 海外にある「慰安婦」関係記録 283
 - 1) アメリカ国立公文書館 (NARA) 所蔵資料
 - 2) イギリス国立公文書館 (Public Record Office) 所蔵資料
 - 3) イギリス帝国戦争博物館 (Imperial War Museum) 所蔵資料
 - 4) オーストラリア国立戦争記念館 (Australian War Memorial) 所蔵資料
 - 5) オーストラリア国立公文書館 (National Archives of Australia) メルボルン分館所蔵資料
 - 6) オランダ国立公文書館 (Het Algemeen Rijksarchief) 等所蔵資料
 - 7) 韓国政府記録保存所所蔵資料
 - 8) 中国所蔵資料
 - 9) 台湾省文献委員会所蔵資料
- おわりに 291

8章 東南アジアにおけるオーラルヒストリーの試み

.....倉沢愛子.....297

- はじめに 297
- 1 インドネシアにおけるオーラル・ヒストリー 299
 - 1) インドネシアの国立文書館
 - 2) オーラル・ヒストリー・プロジェクトの開始
 - 3) インタビュー対象者
 - 4) 調査の実施過程と記録の保存
 - 5) 記録の公開性
 - 6) 国軍史研究所のプロジェクト
- 2 シンガポールにおけるオーラル・ヒストリー 303
 - 1) オーラル・ヒストリー実施機関の変遷
 - 2) 調査テーマ
 - 3) 成果のカタログ化と公開性
- 3 フィリピンのケース 305
- 4 オーラル・ヒストリーの展望 306

II 文書館とアーキビスト

《1編 アーカイブズ・システム論》

1章 記録史料管理政策論 ……………石原一則……………314

はじめに 314

1 近代的アーカイブズの形成とレコード・マネジメント 315

2 日本の記録史料管理政策 316

1) 文書管理

2) 移管と評価選別

まとめにかえて 324

2章 情報公開制度と公文書館制度 ……………渡辺佳子……………327

— 文書のライフサイクルをどう管理するか

はじめに 327

1 公文書活用の目的と定義 328

1) 情報公開制度の理念および目的

2) 公文書館制度の理念および目的

2 情報公開法と公文書館法との関係 330

1) 適用対象となる「行政文書」の範囲

2) 不開示情報と一般の利用制限情報

3 行政文書の管理 336

1) 開示請求権制度の一環としての「行政文書の管理に関する定め」

2) 歴史的な資料として保存する必要があるものの移管

4 文書のライフサイクルとその管理 340

1) 文書のライフサイクルとは

2) ライフサイクルに基づく文書管理

3) ライフサイクルの適切な管理

まとめにかえて 343

3章 文書館の利用と普及 ……………白井哲哉……………347

— 利用者論の観点から

1 課題設定 347

2 文書館利用者像とその変遷 348

- 1) 19世紀後半
- 2) 20世紀前期～中期
- 3) 20世紀後期
- 4) 20世紀末～21世紀初頭
- 3 文書館普及活動の課題と方法 353
 - 1) 課題
 - 2) 方法
- おわりに 358

4章 アーキビスト教育論 ……………安藤正人…………363

- はじめに 363
- 1 専門職（プロフェッション）としてのアーキビスト 364
 - 1) アーキビストの社会的使命
 - 2) 専門職（プロフェッション）の要素
 - 3) アーキビストの倫理綱領
 - 4) アーキビストを支える専門的知識と技能の体系＝アーカイブズ学
- 2 世界のアーキビスト教育——現状と課題 372
 - 1) アーキビスト教育の現状
 - 2) アーキビスト教育の課題
- 3 育て、日本のアーキビスト 386
 - 1) 日本のアーキビスト養成の現状
 - 2) 日本のアーキビスト教育の展望
- おわりに 391

《2編 文書館の立地環境と施設》

1章 文書館建築設計の基本……………青木睦…………396

- はじめに 396
- 1 文書館建築設計の基本的な考え方 396
 - 1) アーカイブズ建物の定義
 - 2) アーキビストと建築家の役割
- 2 文書館施設の立地と施設内空間構成 401
 - 1) 海外のアーカイブズにおける建築・設備
 - 2) 日本の文書館・公文書館における建築・設備
- むすびにかえて 417

- 2章 文書館災害対策論小川雄二郎.....419
- 1 文書館の防災対策の必然性 419
 - 2 文書館が受けた災害による被害 420
 - 1) 20世紀の世界の被害
 - 2) 20世紀における日本の被害
 - 3 災害の防止を考える 423
 - 1) 考えられる被害
 - 2) 災害による被害
 - 3) 火災への対応
 - 4) 水害への対応
 - 5) 落下への対応
 - 4 戦争, 紛争を考える 428
 - 1) 戦争による被害
 - 2) 戦争に対する文書館のとりべき対応
 - 5 文書館災害対策へのアプローチ 432
 - 1) 現状の認識
 - 2) 教育・訓練プログラム
 - 3) 相互支援関係の確立

[付録] アーカイブズ学を学ぶ人のために——主な入門図書